



令和6年度 札幌市文化芸術創造活動支援事業 実施レポート



目次

「札幌市文化芸術創造活動支援事業」とは	1
公募概要	2
全体スケジュール	2
採択事業（一覧）	3
一般社団法人 AIS プランニング	5
特定非営利活動法人コンカリーニョ	9
CO LA（Community Dance Laboratory Sapporo）	1 3
札幌 OS 物流株式会社	1 7
meets AYNU 実行委員会	2 1
シュウカツ実行委員会	2 5
事業全体の評価	2 9
・ 令和 6 年度札幌市創造活動支援事業等評価検証委員会構成員	2 9
・ 札幌市創造活動支援事業の在り方について	3 0
・ 札幌市創造活動支援事業の改善点について	3 1
令和 7 年度の事業方針	3 2
・ 事業等評価検証委員会等の想定スケジュール	3 2

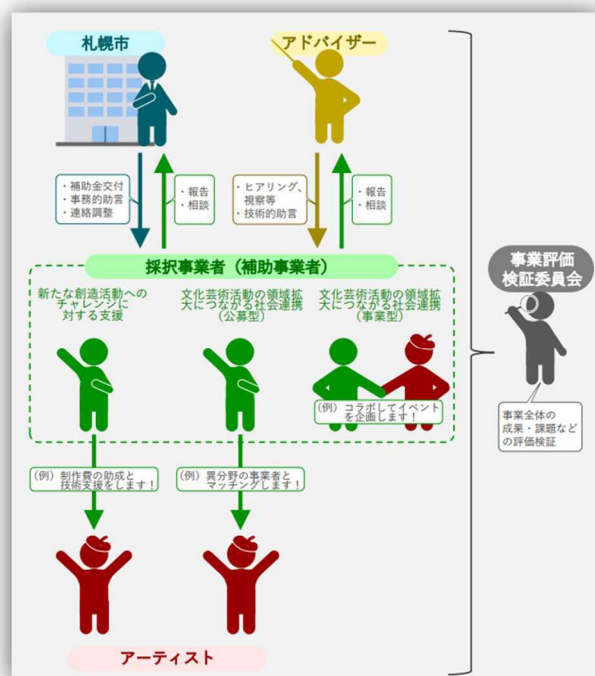
「札幌市文化芸術創造活動支援事業」とは

「札幌市文化芸術創造活動支援事業」は、新しい形のアーティスト支援制度として実証実験の位置づけで行っているものです。従来も札幌市ではアーティストを支援するための助成制度を行っていましたが、これは市からアーティストに対して直接助成金の交付を行うものでした。

しかし、札幌市と文化芸術関係者などが意見を交わす場としてコロナ禍の中設置された「札幌文化芸術未来会議」で、コロナ禍における緊急支援としても、また中長期的な観点からも、よりきめ細やかなアーティスト支援が必要であり、文化芸術を社会・異分野とつなぐマネジメント人材を育成することが重要であるといった意見をいただきました。

こうした議論を踏まえ、行政が行う従来型の助成制度などでは対応できない課題の解決とマネジメントできる人材・団体を育成することを目指し、現場をよく知る中間支援組織を介したアーティスト支援制度として令和4年度に試行的に事業を実施しました。その後、令和5年度に当該事業の結果を検証し、その結果を踏まえて、本格事業化を目指し、令和6年度から改めて試行実施を開始しています。

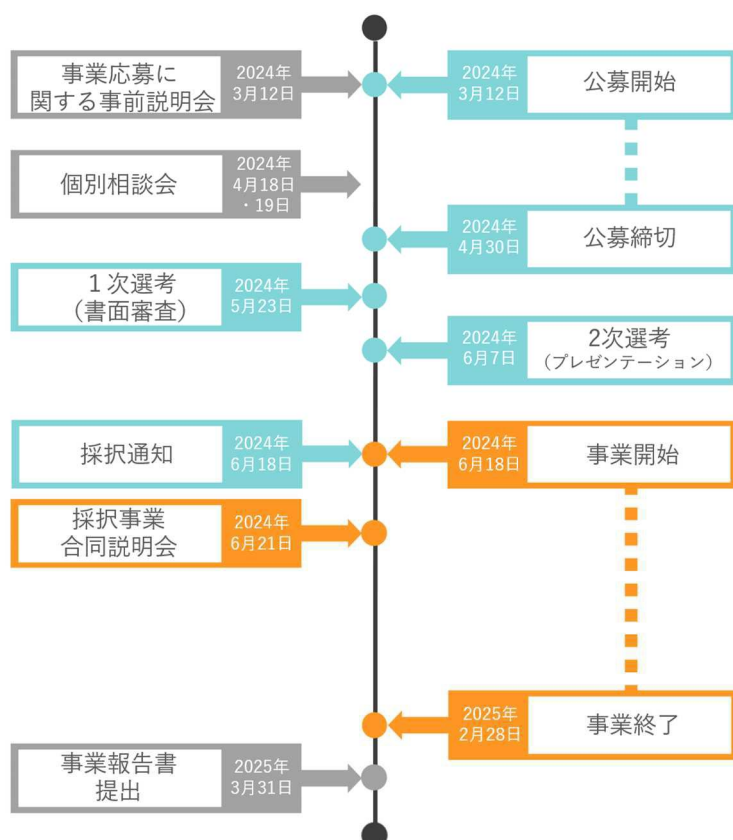
この「札幌市文化芸術創造活動支援事業」では、中間支援組織等が札幌市の補助を受けながら、各々のノウハウや課題感に基づく多様な取組を行います。また、道外の専門家に協力をいただき、取組をよりよいものとするための助言を受けられる仕組みとなっています。加えて、事業の評価にあたっては有識者からなる「事業等評価検証委員会」を立ち上げ、この事業の評価などを外部の目線で行っていただいています。



公募概要

応募区分	新たな創造活動へのチャレンジに対する支援	文化芸術活動の領域拡大につながる社会連携	
		公募型	事業型
補助限度額	300 万円	200 万円	100 万円
補助率	・補助対象経費の全額（10 分の 10）を補助 ・収入が生じた場合は、当該収入に相当する額を補助額から相殺（減額）		
補助対象期間	地域要件	・応募者が札幌市内に拠点を有する団体または札幌市内を主な拠点とする個人であること ・札幌市内を拠点として活動するアーティストを支援対象とすること ・応募内容が札幌市内で行われる活動であること（応募者が札幌市内に拠点を有する者である必要はない） ・札幌市内を拠点とするアーティストがプロジェクトに参加すること。ただし、より効果的にプロジェクトを推進するため必要と判断される場合に、札幌市外のアーティストを併せて参加させることを妨げるものではない。	
	公募の有無	・支援対象のアーティストを広く公募すること ・プロジェクトに参加するアーティストを少なくとも 1 名公募すること	・特に公募を要件とはしない
応募件数	7 件	11 件	22 件
採択件数	1 件	2 件	3 件

全体スケジュール



採択事業

一般社団法人 AIS プランニング

文化芸術活動を通じた コ・クリエーション事業



創作活動における新たな挑戦や異なる分野との交流活動を行うアーティストに対して伴走支援を行います。また、併せてアーティストの活動を支える人材を発掘・育成するコーディネーター育成プロジェクトも並行して実施します。

p.5 へ

特定非営利活動法人コンカリーニョ

こどもとアーティストを 繋げるプロジェクト



劇場が地域社会とアーティストの間に立ち、教育と芸術文化をつなぐ仕組みを構築することで、子どもの創造性と居場所づくりをするとともに、さらにはアーティストの活躍の場も広がっていきます。

p.9 へ

CO LA
(Community Dance Laboratory Sapporo)

公募ダンサーによるコミュニ ティダンスを通じた社会的処 方の実践事業



コミュニティダンスの展開に向けた継続的な仕組みの構築を目指し、札幌を拠点として活動するダンサーを公募し、医療・福祉・教育分野を中心とする団体と連携したコミュニティダンス実践を支援します。

p.13 へ

札幌 OS 物流株式会社

障がい者の自立と社会貢献を 支援するトラックアートプロ ジェクト



障がい者がアート活動に参加しやすい環境の整備を目指し多くの人にパラリンアートの素晴らしさを知ってもらうために、日々運送業を営む当社のトラックの両サイドにパラリンアートを掲載し、日常の中でパラリンアートに触れてもらうアートプロジェクトを実施します。

p.17 へ

meets AYNU 実行委員会

meets AYNU 2025



アイヌの音楽、踊り、歌だけでなく、体験型のワークショップやアイヌの食に関する展示、アイヌ文化についての相談会などを同時開催し、大人も子どももアイヌ文化を体感できる場を提供します。

p.21 へ

シュウカツ実行委員会

シュウカツ/周活



美術館や劇場、大学、民間企業等と連携を行い、展覧会やイベントで廃棄される予定の資材を回収し、別の展覧会やイベント、アーティストの制作のために提供する、継続的な文化インフラの構築を目指します。

p.25 へ

令和6年度札幌市文化芸術創造活動支援事業選定委員会 構成員

氏 名	所 属 等
遠藤 水城	東山アーティスト・プレイスメント・サービス エグゼクティブ・ディレクター
酒井 秀治	北海道教育大学岩見沢校 准教授
野村 政之	一般財団法人長野県文化振興事業団アーツカウンシル推進局 ゼネラルコーディネーター
関 鎮京	北海道教育大学岩見沢校 准教授
米森 正貴	札幌市市民文化局文化部長

上記選定委員としての役割に加え、遠藤さんと野村さんには、アドバイザーとして各採択団体の取組を伴走支援していただきました。

文化芸術活動を通じたコ・クリエーション事業



一般社団法人 AIS プランニング

◀ 団体概要 ▶

文化芸術を媒介として地域の様々な場に創造的な場を生み出すことを目的として活動。アーティスト等の滞在型交流事業や教育機関等への人材・講師派遣などを実施。

◀ 具体的な活動 ▶

① アーティストの創作活動を通じた新たな価値創造支援プログラム

創作活動における新たな挑戦や異なる分野との交流活動をプロジェクト型で公募し、採択されたアーティストに対しコーディネーターが伴走型支援を行いながらプロジェクトの達成を目指す。

② コーディネーター育成プログラム

専門講師による研修、活動現場の見学、実践的コーディネート業務の3つを柱に、アーティストの活動を支える中間支援人材を発掘・育成する。

取組内容

一般社団法人 AIS プランニングが行ったのは、自身のステップアップやキャリアアップにつながる創作活動、ワークショップへの挑戦などアーティストの新たなチャレンジや、まちづくりや商業・観光・教育・環境問題などの異なる分野との交流活動を支援するものです。

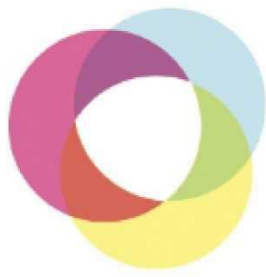
コーディネーターは支援対象となったアーティストとの打ち合わせを通じて、アーティストのプロジェクト実現に向けて伴走支援を行いました。

支援を受けたアーティストからは「伴走してくれる人がいることによって、普段踏み出せない一歩が踏み出せた」や「自分の視点とは違うアドバイスを受けたことで、新たなアイデアが生まれ活動内容が深まった」などの好意的な意見が出ています。

また、このアーティスト支援の場も活用しながら、コーディネーターを育成するプログラムも並行して実施しました。

過去に札幌市で実施したアンケートにおいて、異分野等との連携を進めたいアーティストは一定数いるものの、つなぐ仕組み等がないことで実現しないとの回答があり、コーディネーターの育成は札幌市の文化芸術の振興にとって非常に重要な取組と考えます。

令和4年度の事業において、この育成プログラムを受講した人が令和6年度の採択事業の運営者になっているという好循環も生まれ、今回の取組に参加した方々の今後の活躍にも期待しています。



一般社団法人 AIS プランニング 小林 亮太郎さん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

想定以上の応募者数で、様々なジャンルの表現者が持つ課題を把握することができ、また、支援対象のアーティストへの伴走支援を行うなかで、これまで関係性のなかったコミュニティや企業等とのネットワークが生まれ、今後の取組のレベルアップに資する取組となりました。

アーティストからも伴走支援に対し好意的な評価を受けることができ、また、コーディネーター育成との連動により、アーティストとコーディネーター双方に多様な学びの機会を提供することができたこともよかったと感じています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

創作活動のペースをアーティストに委ねることで、活動の自由度を担保できる一方、コーディネーターとの関わりが深いことにより得られる充実感や経験もあるため、より具体的に支援対象となるアーティストの目標を明確化し、それに応じたコーディネートを行う必要があると感じました。

また、どんな活動においても時間的な制約は付いて回るのですが、支援対象者によっては短いと感じる部分がありました。アーティストごとに様々な活動ペースがあり、その把握も伴走支援においては重要と感じました。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

アーティストの創造活動への介入の仕方について、自由度を担保するために距離をとるのではなく、関係性を深めたうえで見守れる体制を作る必要があることから、質の高いコミュニケーションを取ることを意識したいと考えています。

また、今回の事業で出会ったアーティストに対しては、事業終了後も引き続きサポートを行っていきたいと考えています。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

札幌市の規模の都市において、多く存在する芸術文化活動を支えるには、弊社をはじめ、まだまだ経験と実績、そして、その担い手が必要です。

また、今回の事業で発見した中間支援の在り方、考え方、アーティストの存在意義、コーディネーターの役割などまだまだノウハウとして確立していかななくてはならないことがあります。

文化芸術の支援の在り方について、札幌市ともすり合わせながらより良い事業の形を模索していくこと、そして本事業を継続的に取り組んでいただけることを期待しています。

■ 基本情報

事業費総額	3,092,858 円	
補助金交付額	3,000,000 円	
支援対象者数	アーティスト支援プログラム	コーディネーター育成プログラム
	4 名	20 名
公募への応募数	23 件	
他分野の関係者 (団体) 数	教育機関や企業、財団法人など 12 か所	
Web ページ	【活動概要（報告会の様子）】 https://ais-p.jp/news/2025/03/15/debriefing-session2/	

■ 参加アーティスト

アーティスト支援プログラム

鈴木 悠哉

苗穂地域を中心に町工場で排出される廃棄素材をリサーチし、それをアーティストの作品に転化できないか、又は町工場の技術を活用できないかをリサーチ＆アーカイブ化する活動を支援しました。

きたまり

古代ギリシアの喜劇作家アリストパネスによる戯曲『女の平和』をモチーフに作品を制作予定。若年層を対象にしたワークショップ（WS）や作品制作に向けた勉強会を実施。補助期間中は WS 実施に向けたリサーチや大人向け WS のテスト実施を準備・実践する等の活動を支援しました。

来田 玲子

死生観についてリサーチ・創作活動を行う中で、「生の豊かさ」について探る試み。死生観に関するインタビューや、ワークショップの実施を想定していたが、12 月 3 日から 8 日にかけて実際にイベントを実施。その後も、様々な機会に死生観に関するリサーチを重ねています。

宮本 一行

これまで自身で行ってきた、自然環境の中で音を探り、録音し作品化する活動を様々な人々を巻き込んで実施する取組。街中や公園を歩き、面白いと思った音を録音していく「アクティブ・サウンドウォーク」を行い、市民を交えたイベントや文化芸術活動を実践しました。

○アーティストの声

「人を巻き込んで作品を作るという方法をとることがなかったことで不安があったが、伴走支援があったことによってさまざまな相談ができ、想像以上に創作活動に集中できたことが発見だった。」

「自分がアーティストであるという証明をしてくれる人がいることで新しい関係性を作る一歩になることを認識できた。」

「一緒に走ってくれる人がいることによって（例えセンスティブな内容を含む活動だったとしても）普段踏み出せない一歩が踏み出せることが理解できた。」

「自分の見えている範疇以外の視点でアドバイスを受けられて自分の思考が解体され、当初の想定とは違うアイデアが出てくるなど活動内容が深まった。」

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
2024.8.4	事業説明会開催／アーティスト支援・コーディネーター育成の公募開始	札幌文化芸術交流センター SCARTS
2024.8.10	事業相談会開催	オンライン
2024.9.1	アーティスト支援一次審査実施（書類）	オンライン
2024.9.7	アーティスト支援二次審査実施（面談）	オンライン
2024.9.10	アーティスト支援二次審査実施（面談）・選考・採択者決定	オンライン
2024.9.11	採択者への報告 ※その後不採択となった方々への審査内容のフィードバックと、希望される方との相談会を随時実施	
2024.9.17	コーディネーター育成メンバーとの顔合わせ ※以降、AIS プランニングが展開するアートプロジェクトの活動現場（主に札幌市立栄西小学校、新陽小学校、屯田小学校で実施している「おとどけアート事業」）への見学・参加、コーディネート実践などを随時実施	天神山アートスタジオ
2024.9.24	アーティスト支援開始 ※以後、採択者4名との定期的な面談（月1～2回程度）と活動のアテンド、コーディネートなど伴走支援を実施	
2024.10.23	第一回コーディネーター育成講習会	札幌市資料館 SIAF ラウンジ
2024.11.15	第二回コーディネーター育成講習会	札幌文化芸術交流センター SCARTS
2024.11.24	支援アーティスト宮本一行によるワークショップを実施 ※以降、月1回の開催をサポート	天神山アートスタジオ
2024.12.12	コーディネーター育成の特別回として 2022年の支援事業を振り返る会開催	教育文化会館
2024.12.22	第三回コーディネーター育成講習会	こみか（南平岸）
2025.1.23	おとどけアート活動インタビュー	オンライン
2025.1.26	第四回コーディネーター育成講習会	天神山アートスタジオ
2025.1.27	おとどけアート活動インタビュー	オンライン
2025.2.22	活動報告会実施	札幌市資料館研修室
2025.2.25	支援アーティストきたまりによるワークショップを実施 （午前：一般、午後：中学生）	301 会館 札幌北中学校演劇部

こどもとアーティストを 繋げるプロジェクト



特定非営利活動法人
コンカリーニョ

◀ 団体概要 ▶

まちがアートを育て、アートがまちの力になることを目指すと同時にライブ・アート分野の北海道のトップアンテナ基地ともなりうる創造現場をつくることを目指して、芸術分野に関する事業や新たなコミュニティの拠点としての劇場運営を行っている。

◀ 具体的な活動 ▶

① 子どもアート体験「放課後アート秘密基地」

アーティストが講師となり、ワークショップなどを通してこどものコミュニケーション能力や創造性をはぐくむとともに、こどもたちの居場所づくりに繋げる体験型プログラム

② アートと教育☆ゆるり勉強相談会

上記アートプロジェクトに参加するアーティスト等が教育現場で活躍する先輩アーティストとお話をする場を提供。

③ アートと教育カンファレンス

アートの良いところを多分野に生かして、よりよい社会にしていきたい！ということをぼんやりとした目標に掲げた教育とアートのしゃべり場を設定。

取組内容

コンカリーニョが行った「こどもとアーティストを繋げるプロジェクト」は、子どもアート体験「放課後アート秘密基地」を基軸として、アーティストが子どもとつながる新たな機会と学びの場、ネットワーク形成の場を提供するプロジェクトです。

放課後アート秘密基地は全6回開催され、多くの子どもたちがアートに触れる機会を提供しました。多くの参加者がはじめてアートイベントに参加する子どもであり、アートと新たな出会いを生むことに成功したものと思います。

また、子どもとのかかわり方を学ぶ勉強会やネットワーク形成の場に資するカンファレンスがセッ

トされていることにより、アーティストにとっても学びの多い取組であったようで、全アーティストから、本プロジェクトにかかわったことで何らかの気づきを得ているとのコメントをいただいています。

子どもの体験機会の格差は札幌市に限らず全国の課題ですが、本プロジェクトは、子どもに新しい体験機会を創出するだけでなく、この事業を核として新たな担い手や仲間を増やしていくことに繋がっています。

本企画はこどもとアートを繋ぐ3プログラムで構成

こどものアート体験と居場所作り



アーティストが講師となり、ワークショップなどを通してこどものコミュニケーション能力や創造性を育むと共に、こどもたちの居場所づくりに繋げる体験型プログラム。

アーティストの勉強会



こども事業の経験値が高いアーティストを招聘し、札幌のアーティスト向けに勉強会を開催する。

ネットワークを育むカンファレンス



教育現場の課題を共有し、教育者とアーティストのネットワークや環境づくりに繋げるプログラム。



photo yixtape

プログラムマネージャー 森嶋 拓さん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

アーティストにとっては、スキル・経験の向上や教育市場への参画意欲の向上、子どもと保護者にとっては、新しい体験機会の創出、さらには、担い手となる方々のネットワークの構築など本プロジェクトを核として様々な成果があったものと認識しています。

また、事業を行う中で、自分自身教育分野における社会課題を明確化することや今後アライアンスを立ち上げることを目指すなどの具体的な目標設定ができるようになったことも大きな成果と感じています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

特に事業運営にあたって難しいことはありませんでしたが、アートと教育というフィールドを見渡した時、私たちにはまだまだできることが多いと実感しました。

教育現場を支えるためには安定した予算と健全な財政基盤が不可欠だと思いますが、そのためには、教育の重要性や子どもたちへの投資がもたらす社会的価値についてより多くの人たちの理解を得ることが必要なのではと感じさせられました。この実現に向けては地道な広報活動等を展開していく必要性を感じました。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

改めて感じたこととして、「自分たちが前線に出すぎない」ということが非常に大切と思いました。

今後の方針として教育に関わる個人や団体が緩やかな連携（アライアンス）を立ち上げて、それぞれの利益を損なうことなく協力し合う関係を作っていきたいと考えていますが、そうした中で、自分たちが先端に立つのではなく、事務局のような形で後方にポジションを取り、個人や団体の活動をつなげ、個々の活動を促進し、広報していくことが重要と考えています。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

この事業は、官民がそれぞれの持ち味を生かしながら連携できる可能性があり、他の助成事業では見られないダイナミックな動きにつながりうる事業と思います。

民間の中間支援組織が行政の力を借りながら小規模事業を無数に拡散展開し、文化財団などの大きな組織が広範な面をカバーするという街は他になく、札幌が目指すべき未来像の一つになりうるのではないかと考えます。

■ 基本情報

事業費総額	2,034,086 円
補助金交付額	2,000,000 円
支援対象者数	6 組 15 名（アシスタント含む） ※アンケート回答者 11 名中 11 名全員が教育をはじめとする様々な分野への社会連携を実践していきたいと回答
公募への応募数	15 件
イベント参加者数	64 名 ※アートプログラムに初めて参加する子が 75%、「また参加したい」が 81.3%、「内容次第では参加したい」が 18.7%と全員が次回の参加に対して前向きな回答。
他分野の関係者（団体）数	勉強会やカンファレンスのゲスト 7 組、カンファレンスに参加者 27 名（幼稚園教諭、社会教育士、社会福祉士、企業経営者、僧侶、大学教授、大学生、キャリアコンサルタント、美術教師、市役所職員（本市ではない）などが参加）
Web ページ	【事業公式ページ】 https://conte-sapporo.com/houkago/



■ 参加アーティストとプログラム

アーティスト	内容	開催時期
Humming Earth Project （鈴木明倫、山木将平） アシスタント：NOJI	手や足に絵の具をつけて遊びながら全身で絵を描こう	2024.10.1(火)
One Treasure（武部聖子） アシスタントスタッフ 2 名	色が混ざらない不思議な絵の具でポーリングベアを作ろう	2024.10.8(火)
名越梨紗 アシスタント：二胡とうた凜子、 相良真弓	サビに合わせて新聞紙をパン！フリーダムに音で遊ぼう	2024.10.15(火)
山本謙 アシスタント：吉田野乃子	○△□語でしゃべろう	2024.12.3(火)
Aroma Stylist Mika（小田美佳） アシスタントスタッフ 1 名	クリスマスの香りを作ろうお土産アロマ付き	2024.12.17(火)
小林なるみ アシスタント：甲斐大輔	ラジオ番組を作ってみよう	2025.1.7(火)

○アーティストの声

「教育現場との関わり合い方や、アーティストとして教育に関わる意味など、相談会の中でたくさんの気づきが得られました。」

「1 人きりで講座を進めることが多いですが、オブザーバーとして見守ってくれる第三者の存在がとても大切だと感じました。」

「いろんなジャンルのアーティストによる、さまざまなワークショップのやり方を見ることができて、とても学びになりました。」

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
2024.7.5	若者支援総合センターへのヒアリング 内容：若者支援や困窮者支援の現状	バスセンタービル
2024.7.25	アーティストの公募開始	
2024.7.25	こども審査員の公募開始	
2024.8.19	アーティストの選考会を実施	コンカリーニョ
2024.8下旬～	採択アーティストとのオンライン面談	オンライン
2024.9.12	アートと教育ゆるり勉強相談会・前期	コンカリーニョ
2024.9.20	平岸ハイヤーヒアリング	平岸ハイヤー株式会社
2024.10.1	放課後アート秘密基地 1 回目	PATOS
2024.10.8	放課後アート秘密基地 2 回目	PATOS
2024.10.15	放課後アート秘密基地 3 回目	PATOS
2024.11.2	アートと教育カンファレンス・前期	PATOS
2024.11.6	教育委員会ヒアリング 内容：コミュニティ・スクール 教育支援センターの活動	STV 北 2 条ビル ちえりあ
2024.11.21	安平町ヒアリング	安平町立早来学園
2024.12.3	放課後アート秘密基地 4 回目	PATOS
2024.12.17	放課後アート秘密基地 5 回目	PATOS
2025.1.7	放課後アート秘密基地 6 回目	PATOS
2025.1.18	アートと教育ゆるり勉強相談会・後期	PATOS
2025.1.18	アートと教育カンファレンス・後期	PATOS

公募ダンサーによるコミュニティダンスを通じた社会的処方の実践事業



◀ 団体概要 ▶

ダンス実践を通じてコミュニティや社会にコミットし、アーティストとともに地域社会や住民と協働して、よりよい社会モデルの構築を目指している。

【活動目的】

- ① ダンスとコミュニティ・社会に関わる公演、アートプロジェクトの企画制作及び運営
- ② ダンスとコミュニティ・社会に関するワークショップ、フォーラム等の企画制作運営
- ③ 文化芸術以外の他分野、他産業への講師、実演家、アドバイザー等の派遣
- ④ ダンスとコミュニティ・社会に関する調査研究

◀ 具体的な活動 ▶

公募ダンサーによるコミュニティダンスを通じた社会的処方の実践事業

ダンサーを公募し、外部アドバイザーからのアドバイスを受けたうえで、障がい者福祉施設や保育所等にダンサーを派遣し、それぞれの場所でコミュニティダンスの実践を実施

取組内容

当該取組は、公募ダンサーによるコミュニティダンスの実践を行うプロジェクトです。

コミュニティダンスは、子ども、高齢者、障がい者、貧困者、多様な人種、セクシュアリティなどあらゆる人々を対象とし、健康、レクリエーション、セラピー、エンパワメント、コミュニケーションなど多様な目的で行われているものであり、ダンサーがダンスを教えるのではなく、参加者の創造性を引き出すところに特徴があります。

審査によって選ばれた4人のダンサーが、事前に専門家からレクチャーを受けるとともに、それぞれの外部アドバイザーからのアドバイスを受けながら、障がい者グループホーム、生活介護施設、保育所、放課後等デイサービスにおいて、それぞれ7日間の実践を行いました。

参加ダンサーからは、一方的にダンスを教えるのではなく、参加者から表現を引き出すことの可能性を感じたという意見や、そのための手法を学べたというポジティブな意見が出ていました。

また、実践先となった施設からは、障がいのある方や小さな子どもたちが普段見せない姿を見た、あるいは他者の表現を認め、許容しあう空気が生まれたという感想をいただいております。ダンサー、受け入れ側双方に良い効果をもたらしていることから、今後の展開も期待できます。

なお、2025年3月16日に日本文化政策学会において、この取り組みの研究発表も行われました。

COLA 堀内 まゆみさん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

アーティストにとっては、新たな経験・知識の習得、また、新たな手法の実践、新たな気づきがあり、実施施設においては、障がいのある方や小さな子どもたちが、普段は見せない姿を見せることで、施設における今後の活動や職員の関わり方にも新しい選択が増えたものと認識しています。

また、コミュニティダンスという活動の意義やダンスの価値についての認知を広げることにもつながったものと思っています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

実践先の調整に思った以上に時間がかかり、新規の異分野と連携する際の難しさを感じました。ただ、その分新規で開拓することの意義も感じたところです。

また、ダンサーたちがコミュニティダンスの理念を習得するまでに時間がかかっていたため、ダンサーの研修機会を広げていく必要があると感じました。

今回の実践では参加者からも非常に好意的な意見を多くいただいています。単に動けてよかったねというだけでなく、ダンスの芸術的側面を人々が経験して、芸術実践としてより深みのある実践にすることも課題と感じました。

——課題については今後、どのようにしていきたいですか？

今回の事業を行ったことで、動画や画像などのアーカイブができたので、新規の実践先の開拓にあたっても説明がしやすくなるものと思っています。

また、コミュニティダンスに関心のあるダンサー向けに研修の機会を設けていきたいと考えています。

加えて、事業継続のためには、より多くの人々がコミュニティダンスに関心を寄せることが不可欠であると考えていることから、実践を経験する機会をふやしたり、ネットワークを構築したりすることで、地域社会における当事者意識の醸成をしていきたいと考えています。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

参加ダンサーから、札幌市の事業として実施したという実績があることによって、信頼度が上がり、今後の自身の活動展開にも有用であるとの声もありましたし、本事業自体も行政による事業ということで、関心や信頼を高めることができたと考えています。

改善点としては、公募や事業内容などの広報・周知について、例えば『広報さっぽろ』に掲載してくれるなどの支援をしてもらえるとより助かると感じました。

また、同じ団体に継続支援を行うのか毎回異なる団体に支援を行うのかについては、限られた予算においては、一つの課題と思いますが、少ないパイを奪い合うのではなく、ある団体の成果が、他の団体の成果にも貢献できるような仕組み作りができればよいのではないかと思います。

■ 基本情報

事業費総額	2,024,244 円
補助金交付額	2,000,000 円
支援対象者数	4 名
公募への応募数	14 件
イベント参加者数	49 名 ※ウェルネス南平岸駅前 4 名、ウェルネス南平岸 4 名、ライフサポート美園 10 名、きずな麻生保育園 22 名、こどもサポートりんく新琴似北園 9 名
他分野の関係者（団体）数	5 団体（受け入れ先団体）
Web ページ	【事業者 HP】 http://colacola.satsulabo.net/



■ 参加アーティスト

アーティスト	実践先
ウィルツ幸子	障がい者グループホーム (ウェルネス南平岸駅前、ウェルネス南平岸)
南愛佳	生活介護施設（ライフサポート美園）
タイラハルカ	保育所（きずな麻生保育園）
谷口美和子	放課後等デイサービス（こどもサポートりんく新琴似北園）

■ アドバイザー

氏名	所属等
森嶋拓	CONTE Dance Production／ダンス企画プロデューサー
千代その子	一般社団法人ダンストーク代表
阿比留修一	セレノグラフィカ／ダンサー・振付家
稲田奈穂美	桜美林大学教授

○アーティストの声

「これまではレッスンの中で、自身が一方的にダンスを教えるというやり方に手詰まり感を感じていた部分もあった。しかし、今回双方向性の実践を通じて、その点を打破できることがわかった。」

「これまでダンスに関わっていなかった人でも、少しやってみると楽しいと思ってもらえるものなのだということがわかった。ライブパフォーマンスの良さは伝わるものなのだった。」

「これまで学んできたダンスのメソッドにとらわれず、創作活動において自分なりの表現方法へ新たにチャレンジしたいと、強く考えるようになった。」

「これまでは「正しい形」に引き上げるという意識でレッスンや指導を行っていたが、そうではないあり方を模索するようになった。正解の幅が広がった。また、そうすると子どもたちからも多くの意見が出てくるということがわかった。」

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
2024.6～2024.8	実施先の打診・調整	
2024.9.4～2024.9.18	ダンサー公募	オンライン・チラシ配布
2024.9.7,8,13,14	応募説明会	オンライン
2024.9.30	最終審査会	オンライン
2024.10.16	コミュニティダンスレクチャー (稲田氏)	オンライン
2024.10.31, 11.1,7,8, 12.7	外部アドバイザーによる事前・ 実践アドバイス	オンライン
2024.11.3,10,17,24, 12.1,15,22	ウィルツ幸子による実践	ウェルネス南平岸駅前 ウェルネス南平岸
2024.11.8,15,22,29, 12.13,20,27	南愛佳による実践	ライフサポート美園
2024.11.26 12.9,23, 2025.1.14,20,27, 2025.2.10	タイラハルカによる実践	きずな麻生保育園
2024.11.25 12.2,9,16,23, 2025.1.20,27	谷口美和子による実践	こどもサポートりんく 新琴似北園
2025.2.15	報告会	札幌市教育文化会館

障がい者の自立と社会貢献を支援する トラックアートプロジェクト



札幌 OS 物流 株式会社

◀ 団体概要 ▶

倉庫運輸業を営む企業
紙・フィルム等の倉庫、配送が主体
社員数 14 名

◀ 具体的な活動 ▶

障がい者の自立と社会貢献を支援するトラックアートプロジェクト

パラリンアート事務局を通じて、パラリンアートを2点選定し、その絵を自社の11トントラックに印刷し、走行することで多くの人にパラリンアートの素晴らしさを知ってもらうプロジェクト

取組内容

この取組は、社会貢献をしたいという高谷泰士社長の熱い気持ちからスタートしたアートプロジェクトです。

パラリンアート運営事務局の社会保障費に依存せずに民間企業・個人の継続協力で障がい者支援をするという理念に共感し、自社で何かできないかと考えたことから発足しました。

多くの人たちにパラリンアートを見てもらい、見た人にとっては、素敵な絵との出会いがあり、パラリンアートを描くアーティストにとっては、パラリンアートの認知度が向上し、トラック運転手にとっては、美しいアート作品を運ぶ責任感による運転の安全さや丁寧さに対する意識が向上するという多くの効果を目指したプロジェクトです。

本事業は、自社の11トントラックに2人のアーティストの絵を印刷するところからプロジェクトがスタートしましたが、この完成したトラックを使って、取引先の企業と一緒に取り組まないか掛け合い、補助事業とは別にさらに2台（4トントラック1台、2トントラック1台）にパラリンアートを印刷するに至っており、この補助事業をきっかけに一気に取組を拡大しています。

笑顔がかわいい、心優しい高谷社長の経営手腕が光るOS物流さんから目が離せません。



上が2台目、下が3台目





札幌 OS 物流株式会社 高谷 泰士さん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

事業開始当初から、当社のトラックを見た子どもたちから、「絵本みたいなトラックだね」と喜ばれ、荷主の方々からも「うちの荷物をこのトラックで運んでくれるのはありがたい」と言われ、当社職員についても注目を集めるトラックを大事に乗ろうという気持ちが醸成されており、大きな手ごたえを感じているところです。

また、業界紙からの取材や荷主の方々の中から当該プロジェクトに参加してくれる企業が生まれるなど、想定以上に成果が出ていると認識しています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？

現状においては、特段の課題は感じていませんが、継続することが一番大切と考えています。また同じ想いの人たちがいると感じていることから、この取組を知ってもらって、仲間を増やしていくことが大切と考えています。

加えて、札幌市と一緒にやったということも、この事業がうまく進んでいる要因と考えていることから、広報等での協力も引き続き受けながら、この取組を拡大していきたいと考えています。

——プロジェクトを実施したことで当初想定していなかった成果などがありますか

当社は小さな運送会社でしかありませんが、この事業をきっかけに取組を始めたことで様々なところで良い反応をいただいています。

これまで自分達に関わらなかったところからも声をかけていただくなど、新しいつながりが生まれていると感じています。

また、札幌市と一緒にやっているということについて想定以上の訴求力があり、このプロジェクトが一気に拡大したと思っています。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

アートを活用した取り組みであれば対象になるという事業であることから、自由度が高く事業者のアイデアを生かしやすい制度と感じています。

是非この事業は継続してほしいと思いますし、この制度をもっと多くの事業者にしてもらうために募集 PR を工夫するとより良い事業になると思います。

■ 基本情報

事業費総額	1,480,710 円
補助金交付額	1,000,000 円
支援対象者数	2 名
トラックの走行距離	5,252km (8/19~1/31)
他分野の関係者(団体)数	5 社 (トータル企画株式会社、極東高分子株式会社、北海紙工業株式会社、新生紙パルプ商事株式会社、株式会社物流ニッポン新聞社)
Web ページ	【採択事業 PR ページ (札幌 OS 物流株式会社 HP)】 https://sapporoos1994.v2008.coreserver.jp/notice.html 

■ 参加アーティストとパラリンアート

アーティスト	パラリンアート
友民 (本事業補助金で作成したトラックに掲載)	作品名：しあわせのおと 
神吉みちる (本事業補助金で作成したトラックに掲載)	作品名：おやこのゆめ 
カミジョウミカ (OS 物流さんの取引先企業様と共同で作成したトラック)	品名：レインボー空へカラフルバード 

■ 事業スケジュール

時期	実施内容	実施場所
2024.7.4	パラリンアートの絵の選定	札幌 OS 物流株式会社
2024.7	関係企業に当該プロジェクト参加を打診	
2024.8.9	11 トントラックにパラリンアートの印刷が完了し、当該トラックで運送開始	
2024.8.22	2号車（4 トントラック）完成	
2024.8.28	3号車（2 トントラック）完成	
2024.10.19～20	いきいきウェルネスフェア 2024 に出展 ※業界紙の取材を受けるとともに、参加アーティストのおひとりである友民さんにもトラックをみていただいた。	

○アーティストの声

自分の絵をトラックに印刷していただけるという話を聞いてびっくりした。実際に見てみると想像より大きくてとてもうれしい。このトラックが街を走ってたくさんの人に見てもらえると思うと励みになる。



◀ 団体概要 ▶

meets AYNu を企画、実行、発展させるための実行委員会
過去から現在、そして未来へ向けてのアイヌ文化の伝承、継承及びアイヌに対する誤解や偏見の解消。お互いに誇りを持ち尊重しあえる関係の構築を目指している。

◀ 具体的な活動 ▶

meets AYNu2025

アイヌの音楽、踊り、歌だけでなく、体験型のワークショップやアイヌの食に関する展示、アイヌ文化についての相談会などを同時開催することで、大人も子どももアイヌ文化をゆとりと体感できる1日を作る。

取組内容

2019 年にアイヌ新法が制定されたものの、アイヌの人々の誇りが尊重される社会とは言い難い差別等が散見される現状にあるという認識からこのプロジェクトがスタートし、本当の共生社会の実現に向けた取組としてこの事業が行われました。

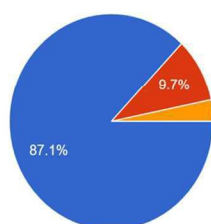
この実現に向け、アイヌの音楽や踊り、歌だけでなく、アイヌの食文化に関する展示や企業におけるアイヌ文化の活用相談会も含めた複合的なイベントとして設計をして、1/25 にシアターZOO で実施しました。

来場者アンケートによると、来場者の 96.8% が「イベントに満足した」、93.9% が「このイベントで新たな気づきがあった」と回答しており、アイヌについて正しく知るきっかけになったと言えます。

共生社会の実現については、一気に解決することは難しい課題ですが、こうした取組を行うことで少しずつでも人々の理解が深まっていくことが望まれます。

今回のイベントはいかがでしたか？

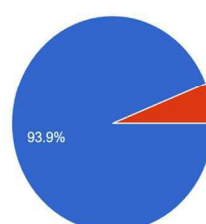
31 件の回答



● とても満足した
● 満足した
● どちらとも言えない
● いまいちだった

このイベントをきっかけに新たな気づきが

33 件の回答



● あった
● どちらともいえない
● なかった



meets AYNU 実行委員会 今 真規さん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえ、課題はありましたか？

本事業を実施したことでアイヌ文化の認知度向上及び参加者との交流による理解度の向上、普及促進につながったものと認識しています。

また、音楽、食、舞踊ワークショップ、相談会という複合的なイベントとしたことから、当初目的のものに触れた後に別のものにも触れてみるということにつながり相乗効果があったものと感じています。

もともとアイヌというコンテンツに興味がない方の来場もあり、無料のワークショップを契機に最終的にはライブまで参加いただくことなどもあり、こうした取組が新たなきっかけとなりうるということがわかりました。

ただ、アイヌ文化に関心がない方々への告知の難しさもあり、集客が難しい部分がありました。

——プロジェクトを実施したことで成長した部分はありましたか？

プロジェクトを経験したことで複合イベントを実施する上での動線やスタッフの配置、時間配分などの運営ノウハウを確立することができました。

——プロジェクトを実施したことで当初想定していなかった成果などはありますか

イベント実施にあたって来場者アンケートを取りましたが、このイベントで新たな気づきがあったという割合が93.9%と非常に高く、アイヌ文化に実際に触れてもらう大切さを改めて感じました。

また、参加動機のうち31.4%がアイヌについて知りたいという回答であり、知りたいというニーズが一定程度あるということもわかりました。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

事業の自由度が大きく様々なことを盛り込むことができました。収益よりもアイヌ文化の理解促進と参加者同士の交流などに重点を置くことができ、自分たちのアイデアを生かしやすい制度と感じています。

また、札幌市文化部の方々のサポートを受けられるなど、相談できる安心感があるのは良かったと感じました。

改善点としては、事前相談会にのぞむ前に応募内容についてQ & Aで軽く確認ができるとより申請する側の理解が進むと思います。

■ 基本情報

事業費総額	1,177,484 円
補助金交付額	1,000,000 円
支援対象者数	4 組 14 名
他分野の関係者（団体）数	2 団体 6 名
イベント参加者数	65 名

■ 当日スケジュール等



■ 参加アーティスト

OKI



マレウレウ



川上 さやか



アンコラチメノコウタラ



meets AYNUL 2025

1月25日(土)

17:00open

17:30start

一夜限りの
スペシャルライブ

ticket 2000yen

申込み先着順



OKI



マレウレウ



川上さやか



アンコラチメノコウタラ



こちらは入場無料↓ and
アイヌ舞踊ワークショップ
14:00～と15:00～

AYNU BASEアイヌ文化活用相談会

13:00～15:00

しよくLab.展示

13:00～16:00

@扇谷記念スタジオ シアターZOO
札幌市中央区南11条西1丁目3-17
ファミリー中島公園B1F

主催:meets AYNUL実行委員会
AYNU BASE

令和6年度 札幌市文化芸術創造活動支援事業



◀ 団体概要 ▶

文化芸術の資材循環に関する活動を行うことにより、喫緊の世界的課題である環境問題に対応しながら、地域の個人・団体・施設による創作活動を支援するために設立

◀ 具体的な活動 ▶

シュウカツ/周活

美術館や劇場、大学、民間企業等と連携を行い、展覧会やイベントで廃棄される予定の資材を回収し、別の展覧会やイベント、アーティスト背策のために提供する、継続的な文化インフラの構築を目指す取組

回収される資材は街の成分であり、歴史であり、倉庫はその博物館でもある。シュウカツはそれらを見える形で表現するアートプロジェクトとしての機能を併せ持つものであり、アーティストがその資材を転用する創造力を市民に普及する教育事業でもある。

取組内容

この取組は、代表者の岡碧幸さんがミュンヘンで滞在制作を行っている中で文化芸術分野に特化した資材循環の活動を行っている treibgut という団体と出会ったことからはじまったものです。

岡さんは、この循環の仕組みは地域のアーティストの制作活動を支えるだけでなく、一時的に滞在するアーティストにとっても非常に良いものと感じ、さらに、天神山アートスタジオのディレクターである小田井真美さんがこの考えに共感したことから、2024年1～2月に開催されていた札幌国際芸術祭の期間中に実験的に取組を開始しました。この実験期間は2か月半ほどで終わりましたが、活動の継続を目指し、本事業を活用して自律的な運営とより効果の高いプロジェクトへのレベルアップを目指しました。

事業開始にあたっては、苗穂基地と天神山アートスタジオに倉庫を構え、取組を実施しました。

資材の受け入れの仕組みとしては個人からの持ち込みもありながら大きなイベント等があれば調整のうえ資材回収を実施しました。

また、毎週土曜日については、オープンデーとして、予約等なしで資材の持ち込みや引き取り、相談ができる日も設けました。

プロジェクト期間中に 750 kg の回収と 670 kg の提供を行い、23 人のアーティストがその資材を利用した作品を札幌市内で発表しており、資材循環とアーティスト支援が両立している素晴らしい取組となっています。



シュウカツ実行委員会 岡 碧幸さん

——今回の取組を行ってみて、成果や手ごたえはいかがでしたか？

プロジェクト期間中に 750kg の回収と 670kg の提供を行い、約 50 件のアーティストや施設に資材の提供を行いました。また、23 人のアーティストが資材を利用した作品等を札幌市内で発表してくれています。

2023 年度は札幌国際芸術祭の連携プログラムということが後ろ盾となって回収先との交渉を後押ししてくれましたが、2024 年度は新たな関係性を構築することに苦慮する 1 年でした。

ただ、そうした中でも既存の関係先から新たな回収先を紹介いただいたり、偶然の出会いをきっかけに新たな関係性が生まれたり、ネットワークの蓄積による活動の発展を感じています。

——難しかったことや、今後の課題はありましたか？またそれに向けてどのように考えていますか？

認知が広がり、回収する機会も増えたのですが、保管場所に限りがあり、活動を制限せざるを得ない状況がありました。

運営の基盤をより強固にすることで、スペースの拡充にもつながるものと考えていますので、継続できる体制づくりを目指していきたいと考えています。

——プロジェクトを実施したことで成長した部分や当初想定していなかった成果などはありますか？

成長した部分としては、市内の回収先との関係性を広げられたことや道外の資材循環を目指す活動とのコミュニケーションにより、新たなノウハウを蓄積したことが挙げられます。

また、回収時の法的規制についての正しい把握と乗り越え方を知ることにより、スムーズな回収へと繋げることもできるようになりました。

当初意図していなかった成果としては、活動の認知が広がるにつれて、アーティストが「こういうものを探している」という要望を直接伝えてくれるようになり、回収するものの選別の精度が上がったことが挙げられます。

——「文化芸術創造活動支援事業」の今後の展開に関してのご意見をお願いします。

採択事業者同士の交流もあり、有意義なコミュニケーションができました。また、アドバイザーの紹介により道外のシンポジウム等に参加することとなり、ネットワークを作ることでもできました。

また、事務局の方に札幌市環境局などの関連する部署を紹介していただき、お話する機会を設けてもらったことも非常に有意義でした。

採択事業に対してこうしたサポートを今後とも続けていただければと思います。

■ 基本情報

事業費総額	987,284 円
補助金交付額	943,284 円
支援対象者数	約 50 組（アーティスト、文化施設）
資材の回収量と提供料	回収量 750kg、提供量 670kg
他分野の関係者（団体）数	10 団体
Web ページ （インスタ ドレス）	https://www.instagram.com/shukatsu.spr?igsh=MWRsaWlyeTc5bzhoeg== 

■ 回収先例

◆ 共同スタジオ「0 地点」



◆ 武蔵野美術学院



■ 提供先例

◆ 堀江理人「ゆきどける—— 「アートより除雪」から分化する、6 人の視点」 (500m美術館)



◆ 山岸耕輔「観光から探考へ 計らさる 水平」 (清水沢コミュニティゲート(夕張))



■ 事業スケジュール（回収は規模の大きいもののみ）

時期	実施内容	実施場所
2024.6～2025.2	資材倉庫のオープンデーの運営 ※予約等なしで資材の持ち込みや引き取り、相談ができる日	苗穂基地・天神山アートスタジオ
2024.9.8	モエレ沼展覧会後資材回収	モエレ沼公園
2024.9.15	札幌武蔵野美術学院移転時回収	札幌武蔵野美術学院
2024.10.15	白老 roots and arts 会期終了後回収	白老 roots and arts
2024.11.26	市内の閉業する事務所から回収	プリントスタジオアーチ
2024.12.20	設計事務所から回収	山脇構造設計事務所
2025.1.10	市内のアートスペースから回収	0 地点、naebono art studio

○アーティストの声

「ぜひ、続けてほしい」という声を多くいただいた。

※ シュウカツの取組をまとめた記録集も作成



事業全体の評価

札幌市文化芸術創造活動支援事業は、札幌市におけるアーツカウンシル機能の検討の一環として行っているものであり、外部有識者で構成される「札幌市文化芸術創造活動支援事業評価検証委員会」において、事業の在り方、事業の改善点について協議していただきました。

令和6年度札幌市文化芸術創造活動支援事業等評価検証委員会 構成員

氏 名	所 属 等
細江 快広	札幌市芸術文化財団市民交流プラザ事業部 センター事業課長
本田 修	元国際交流基金文化事業部長
山本 麻由美	京都芸術センター副館長、京都市文化政策コーディネーター
吉本 光宏	合同会社文化commons研究所代表
若林 朋子	プロジェクト・コーディネーター、 立教大学大学院教員

■ 札幌市文化芸術創造活動支援事業の在り方について

事業等評価検証委員会の皆様に事業の仕組みや採択事業の状況、全国の状況などを説明した上で、当該事業の在り方について協議をいただき、以下のようなご意見をいただいています。いただいた意見も踏まえながら、事業の在り方について継続的に検討を進めます。

1 中間支援組織の活用の価値

- 行政ではなく、中間支援団体が支援を行うことのメリットは以下の4つと整理できる。こうしたメリットを考えると、行政が直接助成をするのではなく、中間支援組織を通じて助成をすることは、同じ助成金の額だとしてもその価値を何倍にもすることであると言える。
 - ① 特定分野の専門性が高い
 - ② 地域のネットワークの張り方、網の目の細かさ
 - ③ 前例にとらわれない発想で実行する実行力
 - ④ 引っ張ってってくれるリーダーシップ
- こうした中間支援組織が札幌にあること自体、札幌の財産といえる。

2 適切な助成の規模や枠組み

★ 継続採択の必要性

- ・この事業は他の分野を含む人的、組織的ネットワークを構築したり、事業ノウハウを構築したりすることが必要な事業であり、事業によっては、一度の事業実施では不十分である場合がある。その場合、投資が十分に生かされないことになるため、必要であれば継続して採択することが助成の意義を確保するうえで必要。

★ 事業の構成（創造活動、社会連携公募型、社会連携事業型）

- ・現状において、特にこの構成で問題が発生しておらず、また毎年助成スキームを変更すると担い手側が先を見通してプランを検討することができなくなってしまうため、当該構成を維持することが望ましい。

★ 間接経費の在り方

- ・中間支援や伴走支援を行うにあたって最も重要なものは人であり、そこに経費がかかることは当然のこと。
- ・本事業は中間支援組織の育成も目的の一つであることを考えると、採択団体の人件費自体も中間支援組織育成のための事業費と言えるのではないか。
- ・アーティスト支援をアウトソーシングしている形とも見ることができるが、そうであれば、行政が直接実施する場合、人件費がかかるのであるから、当然中間支援団体の人件費も適切に考慮する必要がある。

★ 適切な助成単価、補助率、予算規模

- ・助成単価については、事業型に比べ公募型の金額が高く設定されている。
- ・補助率については、多くの事業は事業収益性が低いわけで、確実な事業実施を確保するためには、10/10 であることが必要。
- ・予算規模については、札幌市の都市規模に比べて助成額が非常に少ない。申請数に対する採択数が低いため、採択率が非常に低く、SCARTS 助成とともにさらに充実させるべき。

★ 創造活動支援事業の評価に係る指標

- ・当該事業を正しく説明するためには数字だけで語るのではなく、エピソード等も併せて伝えることが必要。
- ・数字についても入場者数などのいわゆる静的数字ではなく、例えば、新たな挑戦に踏み出した数など変化を表す動的な数字を成果指標にすることが良いのではないか。

■ 札幌市文化芸術創造活動支援事業の改善点について

採択事業者へのアンケートなども踏まえ、当該評価検証委員会で事業の改善点についても協議をいただき、令和7年度事業において以下の部分について改善をしています。

※ 採択事業者アンケート結果についてはこちら

https://www.city.sapporo.jp/shimin/bunka/entaku/documents/02_siryo2_4.pdf

1 公募の早期開始

公募期間も事業期間も長い方が望ましいとの意見を受け、事業期間の短縮につながらないよう制度的に可能な範囲で最大限公募期間を取れるよう公募の早期開始を行いました。

令和6年度事業の公募期間	令和7年度事業の公募期間
3月12日～4月30日（50日間）	2月25日～4月30日（65日間）

2 採択事業者が行う公募への事務局の関わり方

公平性を担保する観点での採択事業者が実施する公募への関わり方については、「公募に係るガイドライン」を作成するとともに、市職員等によるオブザーバー参加に変更しました。

令和6年度事業の仕組み	令和7年度事業の仕組み
市職員等が審査委員として参加	公募に係るガイドラインを作成 市職員等はオブザーバーとして参加

3 他の補助金との併給

多様な財源確保を後押しすることが重要との意見を踏まえ、札幌市以外の補助金との併給を可能とする仕組みに変更しました。

令和 6 年度の補助対象外事業	令和 7 年度の補助対象外事業
国若しくは札幌市を含む地方公共団体 又はこれらが出資する公的団体からの 補助金、助成金等の交付を受ける事業	札幌市、札幌市が出資する公的団体又 は札幌市が構成団体の一つとなってい る団体からの補助金、助成金等の交付 を受ける事業

令和 7 年度の事業方針

第 4 期札幌市文化芸術基本計画において、重点取組事項の一つとして「札幌に適したアーツカウンシル機能の検討」を掲げています。本事業はその中核になりうるものと考えており、令和 7 年度についても実証実験を継続することとしています。

令和 6 年度は、本事業の評価検証に注力してきましたが、令和 7 年度は協議の幅を広げ、相談窓口機能やそのほかの本市に必要なアーツカウンシル機能やその仕組みについて検討することを予定しています。

■ 事業等評価検証委員会等の想定スケジュール

時期	協議事項等（想定）
7 月 29 日	○令和 6 年度事業の振返り、創造活動支援事業の今後について
9 月頃	○札幌市に必要なアーツカウンシル機能に係る協議
10～11 月頃	○市民の皆さんとのアーツカウンシルについて考えるイベントを開催
2 月頃	○札幌市に必要なアーツカウンシル機能の枠組みに係る協議